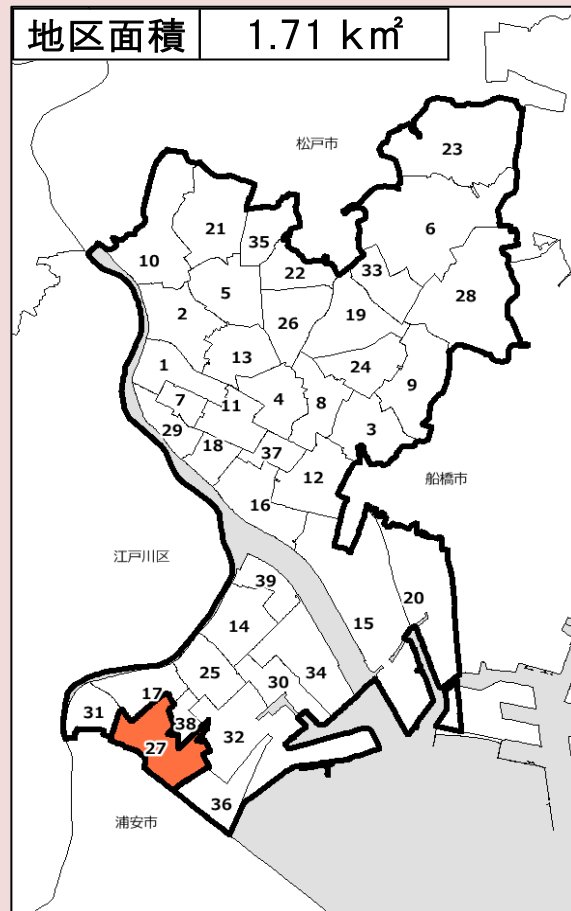


27 富美浜小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

富美浜小学校区は市の南西部に位置し、地区の南側は猫実川に面しています。また、地区の南西側は浦安市が隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、氾濫平野と埋立地・盛土地で構成されており、平坦な低地となっています。地区の北側は第二種中高層住居専用地域の住宅地となっており、マンション等が多く建ち並んでいます。地区内の東京メトロ南行徳駅周辺は商業地域となっており、商業施設が多数立地しています。また、地区の南東側は市街化調整区域となっています。

◆都市基盤

地区内全域は、土地区画整理事業により整備されました。地区の南東には東海面公園があり、市民の憩いの場となっています。北東から南西にかけて都市計画道路3・4・24号、北西から南東にかけて都市計画道路3・2・8号が通っています。

また、地区の北東から南西にかけて東京メトロ東西線が通っており、南行徳駅があります。地区内には、東西線妙典駅から東京ベイ浦安市川医療センター行きの市川市コミュニティバス等が通っています。

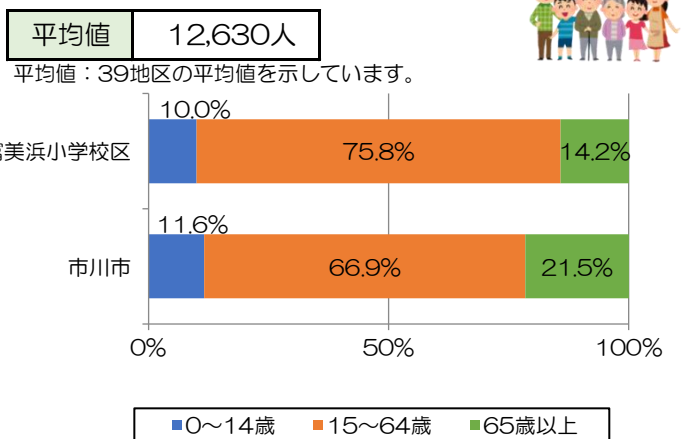
(3) 人口・建物概況

◆人口

年齢別割合

	富美浜小学校区	市川市	割合※
人口総数	24,840人	492,564人	5.0%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合



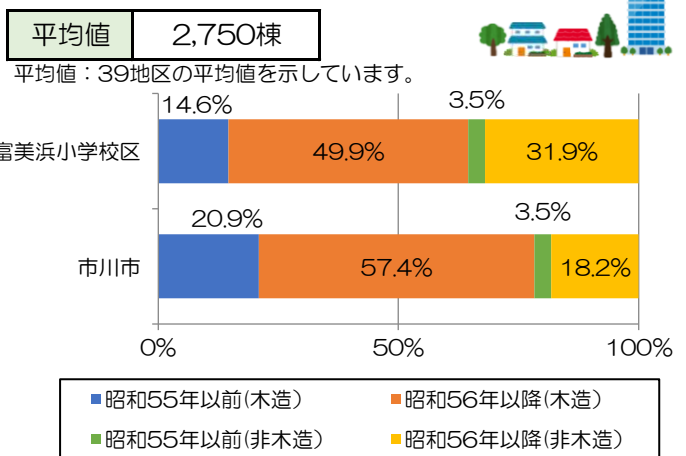
地区の人口は、全地区の平均人口より多いです。市全体と比較すると15～64歳の割合が高く、現役世代が多い地区となっています。

◆建物

構造別割合

	富美浜小学校区	市川市	割合※
建物総数	3,019 棟	107,267 棟	2.8%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合



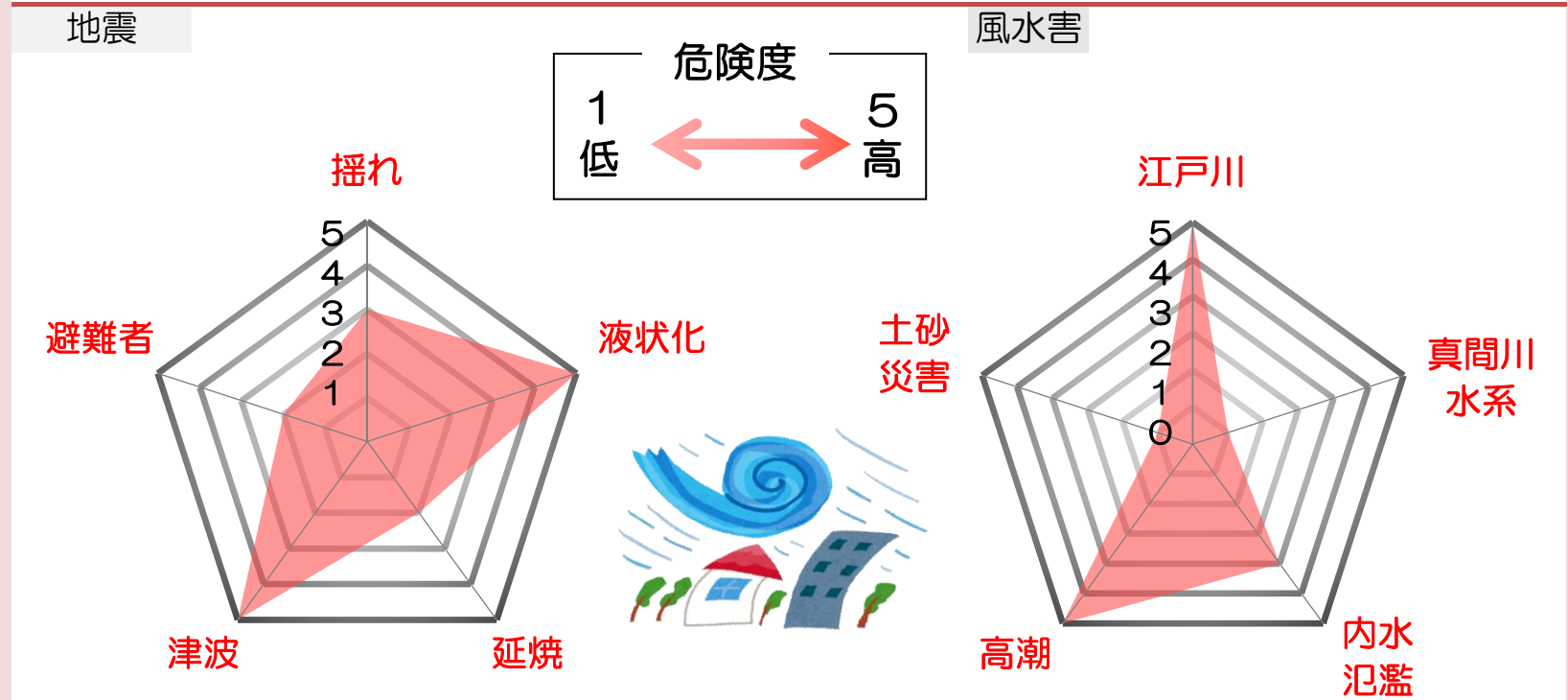
地区の建物は平均よりやや多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、非木造建物が多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

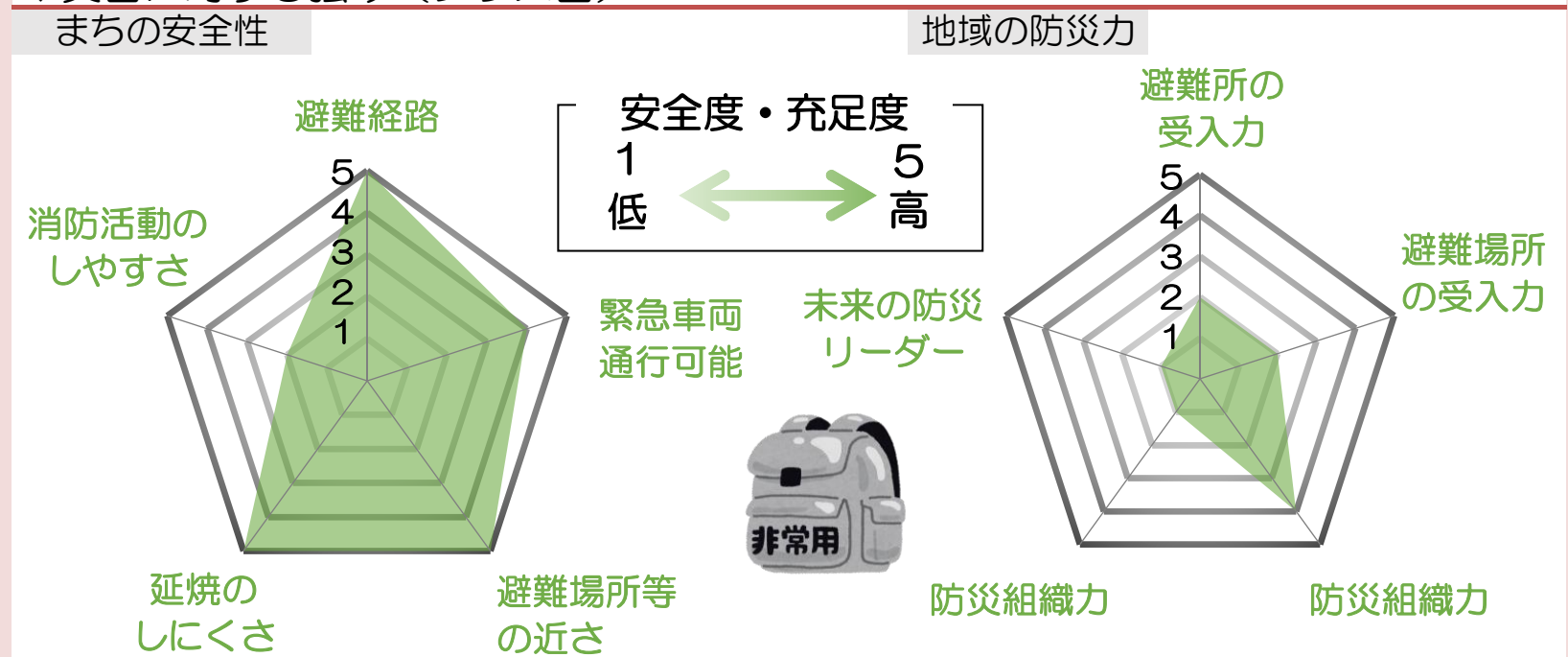
市川市防災カルテ < 富美浜小学校区 >

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

富美浜小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、液状化の危険性、津波による猫実川からの越水で浸水の危険性が高い傾向にあります。風水害については、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高く、高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、避難経路や緊急車両通行可能道路の充足度、避難場所等の近さ、延焼のしにくさは高い傾向にあるものの、消防活動のしやすさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力は高い傾向にあるものの、避難所の受入力、避難場所の受入力、防災活動力、未来の防災リーダーは低い傾向にあります。

（５）防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
富美浜小学校	-		
南行徳中学校	-		
福栄老人いこいの家	○		

◆避難場所

名称
富美浜小学校
南行徳中学校
南行徳公園
東海面公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	なし		医療救護所	なし
			関連施設	南行徳駅前交番



（６）被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

想定項目		富美浜小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	2.6%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	11.3%	11.8%
	焼失棟数の割合	1.5%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	25.3%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.2%	0.4%
	避難者の割合	15.8%	20.0%



◆風水害（被害を受ける割合）

想定項目		富美浜小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	99.2%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	50.6%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	100.0%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震被害については、新耐震基準の建物割合が高く、非木造建物が多いことから、建物被害は少ない傾向にあります。また、人的被害については、死傷者は市全体より少なくなっています。

一方で、風水害については、高潮の浸水、江戸川の氾濫による影響が大きく、市全体と比較して高潮、江戸川の氾濫による浸水棟数は多くなっています。

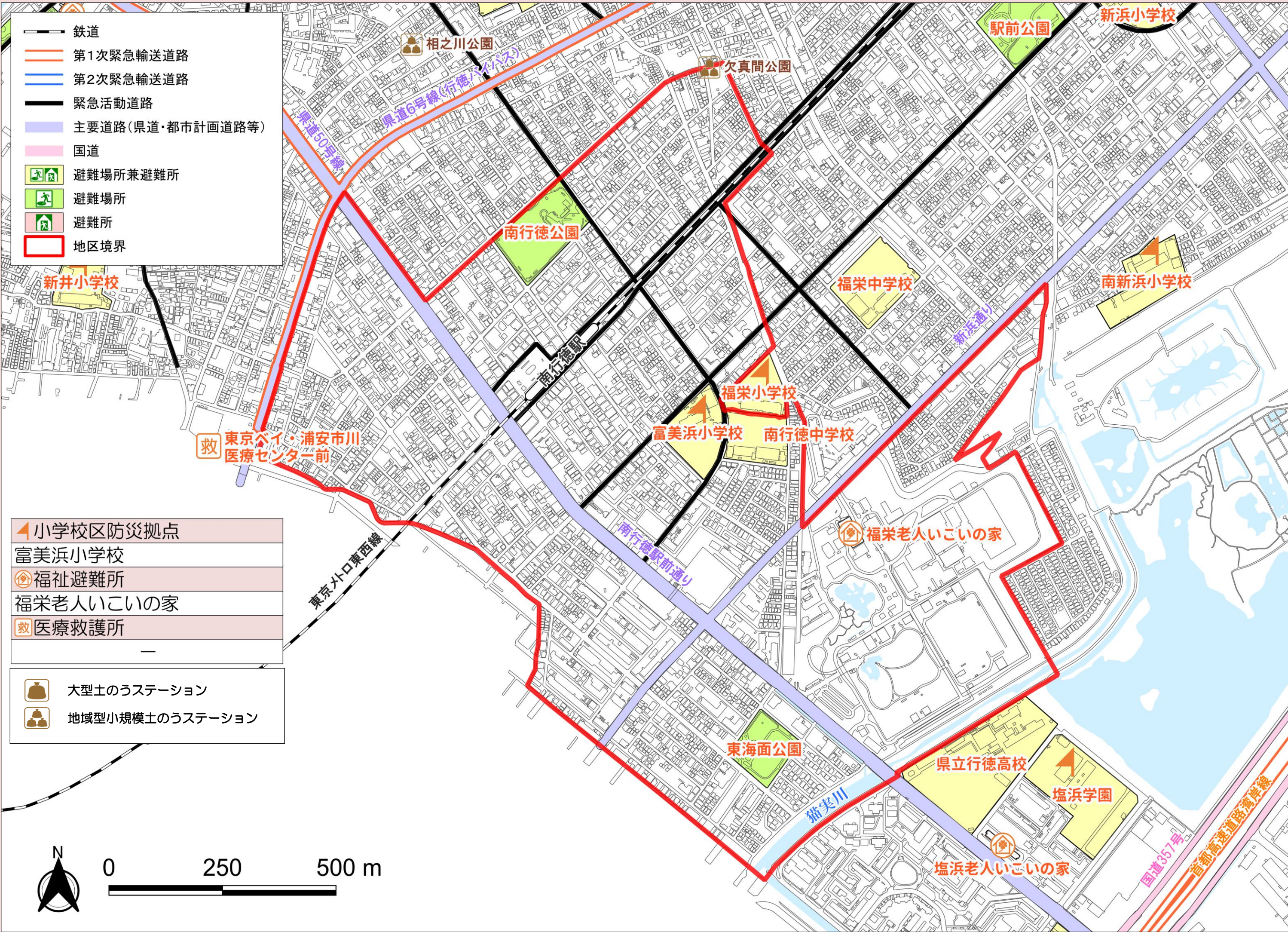
（７）防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、液状化、津波による危険性が高いことから、耐震対策やライフライン途絶に備えた備蓄、津波避難対策を行うことが重要です。また、地区の南西部においては、津波による浸水域が広がる危険性があることから、円滑な避難に備えることが重要です。
風水害	河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区には、消防水利の充足が低く、消火までに時間を要することが考えられるため、初期消火の対策等が重要です。
地域の防災力	地区には、避難所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所が混雑する可能性があり、在宅避難ができるよう自宅の備えを整えることが重要です。また、避難場所の充足度が低いことから、他の避難場所や広域避難場所の確認が重要です。さらに、防災活動力が低いことから、災害発生時に即座に対応できるよう、初期対応や応急復旧活動に対する対策を行うとともに、未来の防災リーダーとなる人材の育成を進めていくことが重要です。

（８）防災対策の方向性

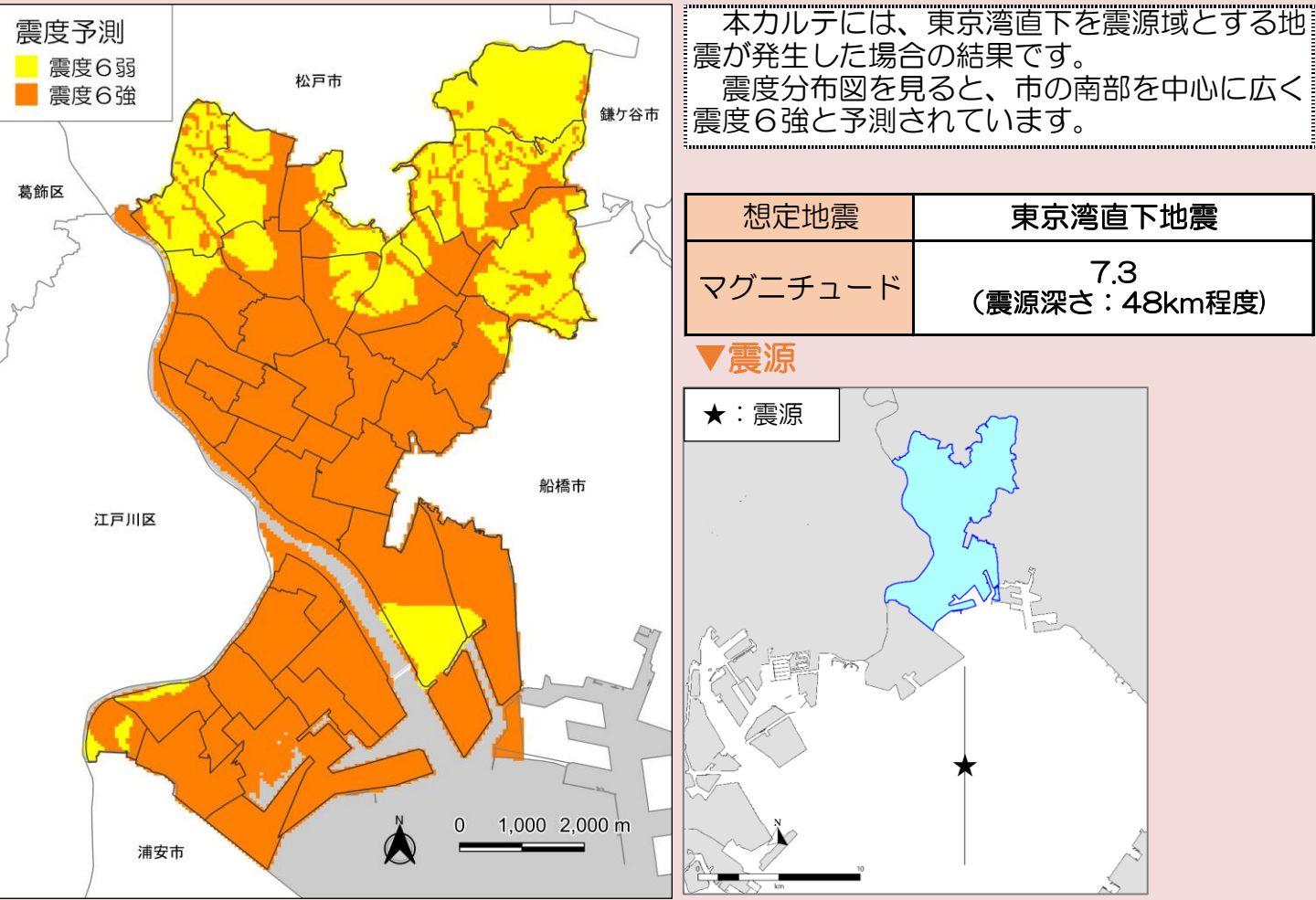
項目	取組の方向性
地域の取組	災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 市が開催する防災セミナーやイベント等に参加する等、地域ぐるみで防災リーダー等を育成していくことが必要です。 地区内の避難場所の受入力が低いため、近隣地区も含め避難場所を確認し、あらかじめ地区の中で情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 消防活動のしやすさが低いことから、住宅用消火器を設置する等、初期消火等の対策を行うことが必要です。また、住宅用火災警報器の設置を行う等、火災発生時の逃げ遅れ対策を行うことが重要です。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

(9) 防災マップ



(10) 基礎資料

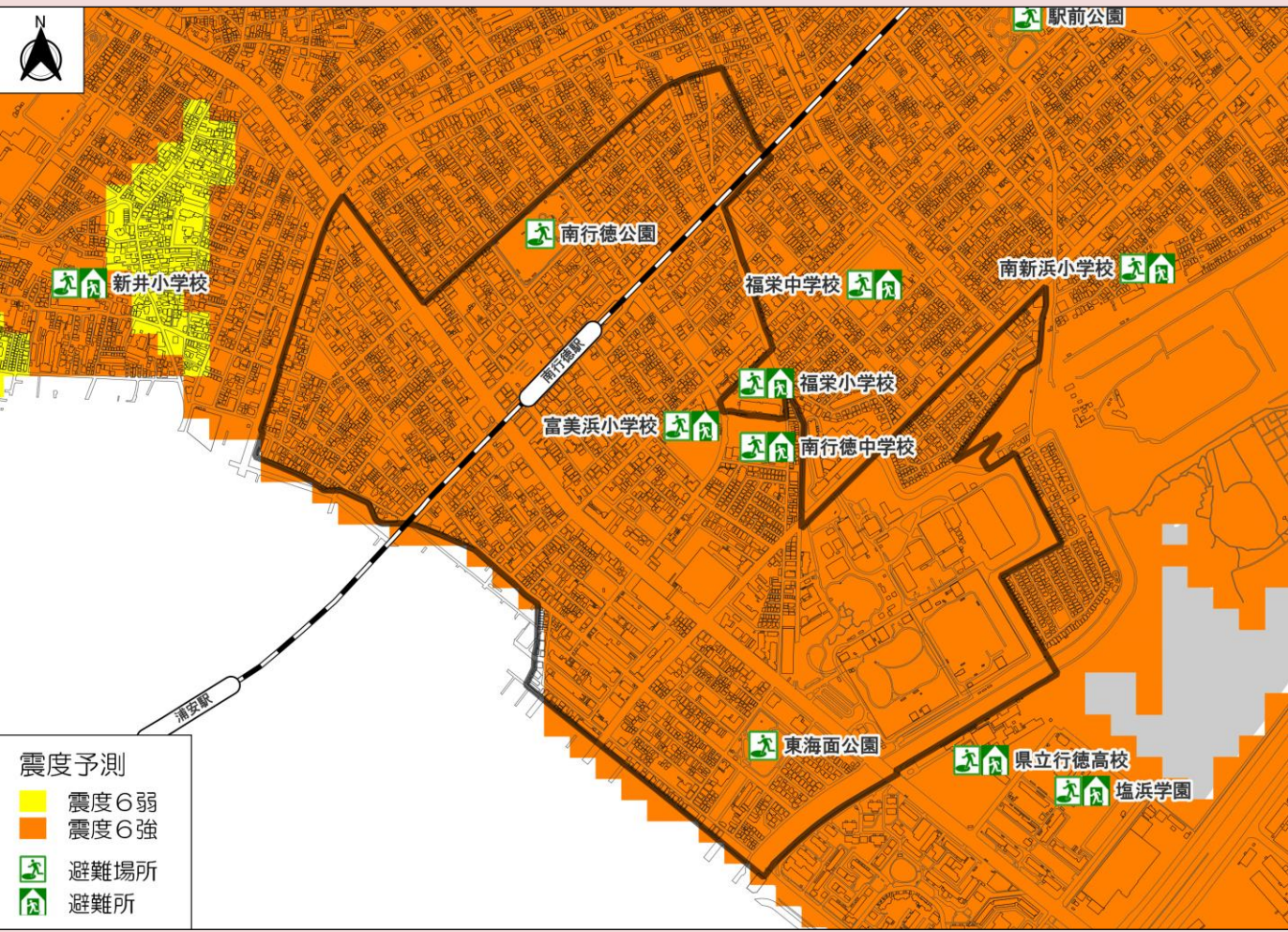
①市全域の震度分布図



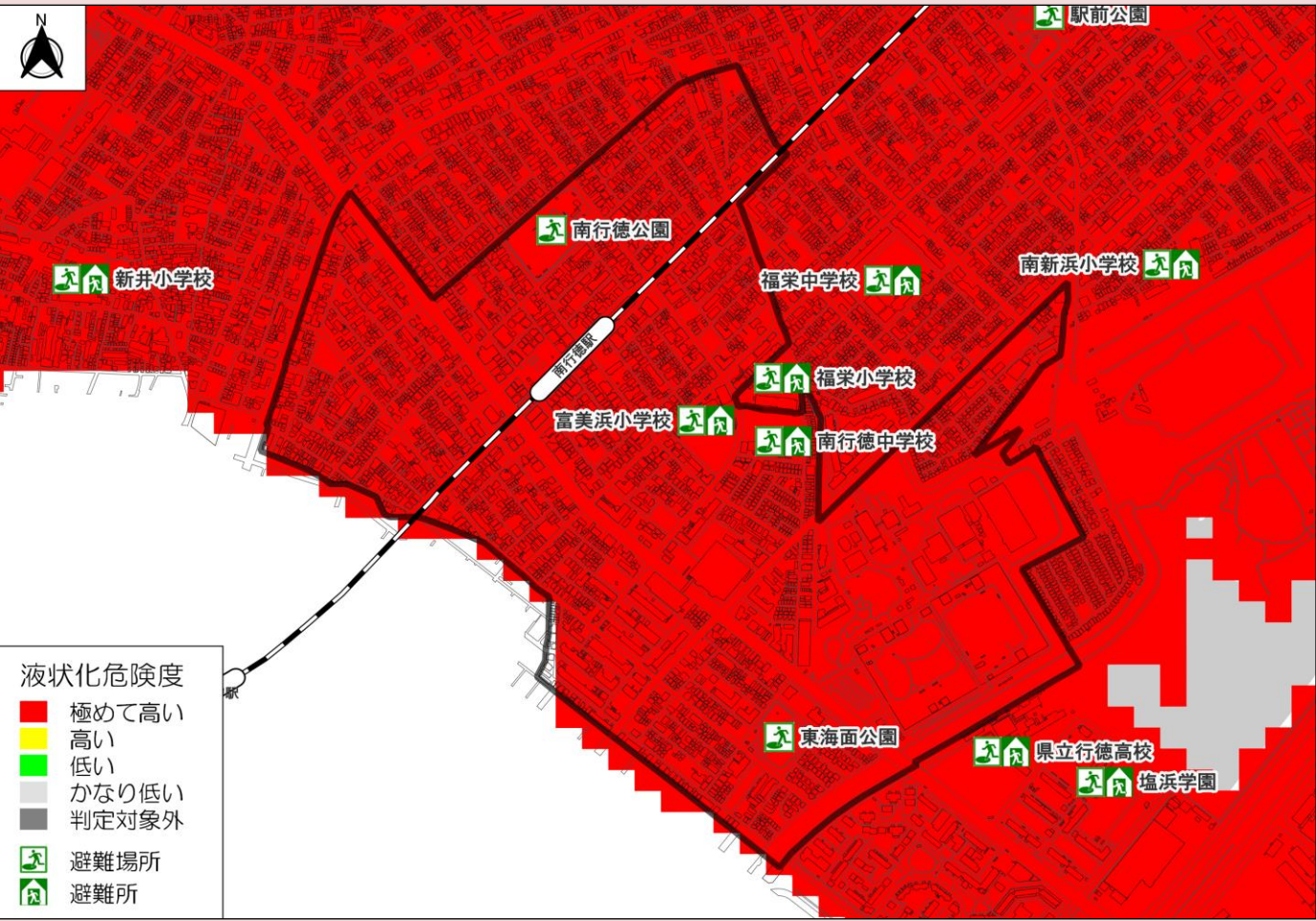
本カルテには、東京湾直下を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の南部を中心に広く震度6強と予測されています。

②震度分布図

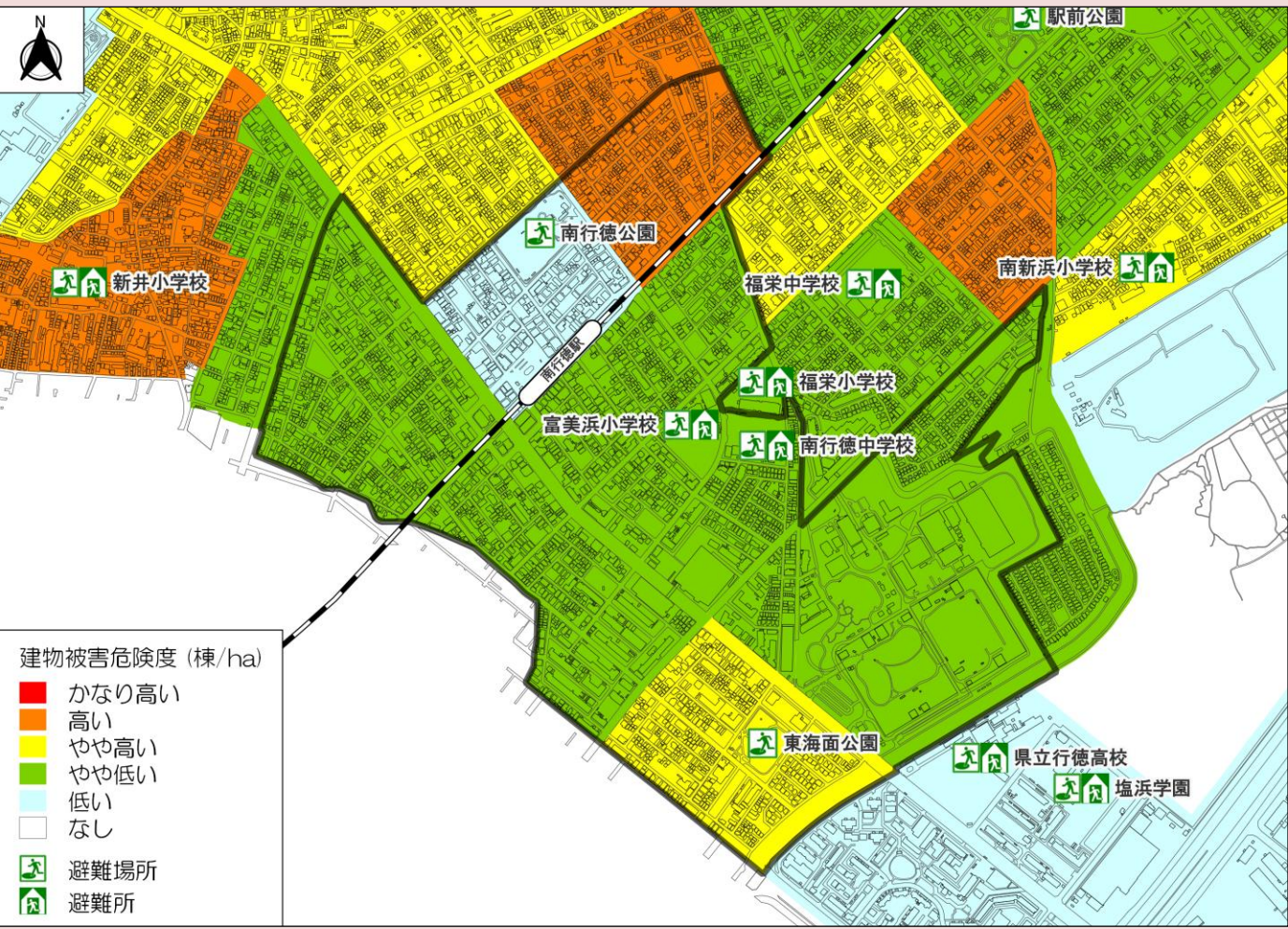
※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。



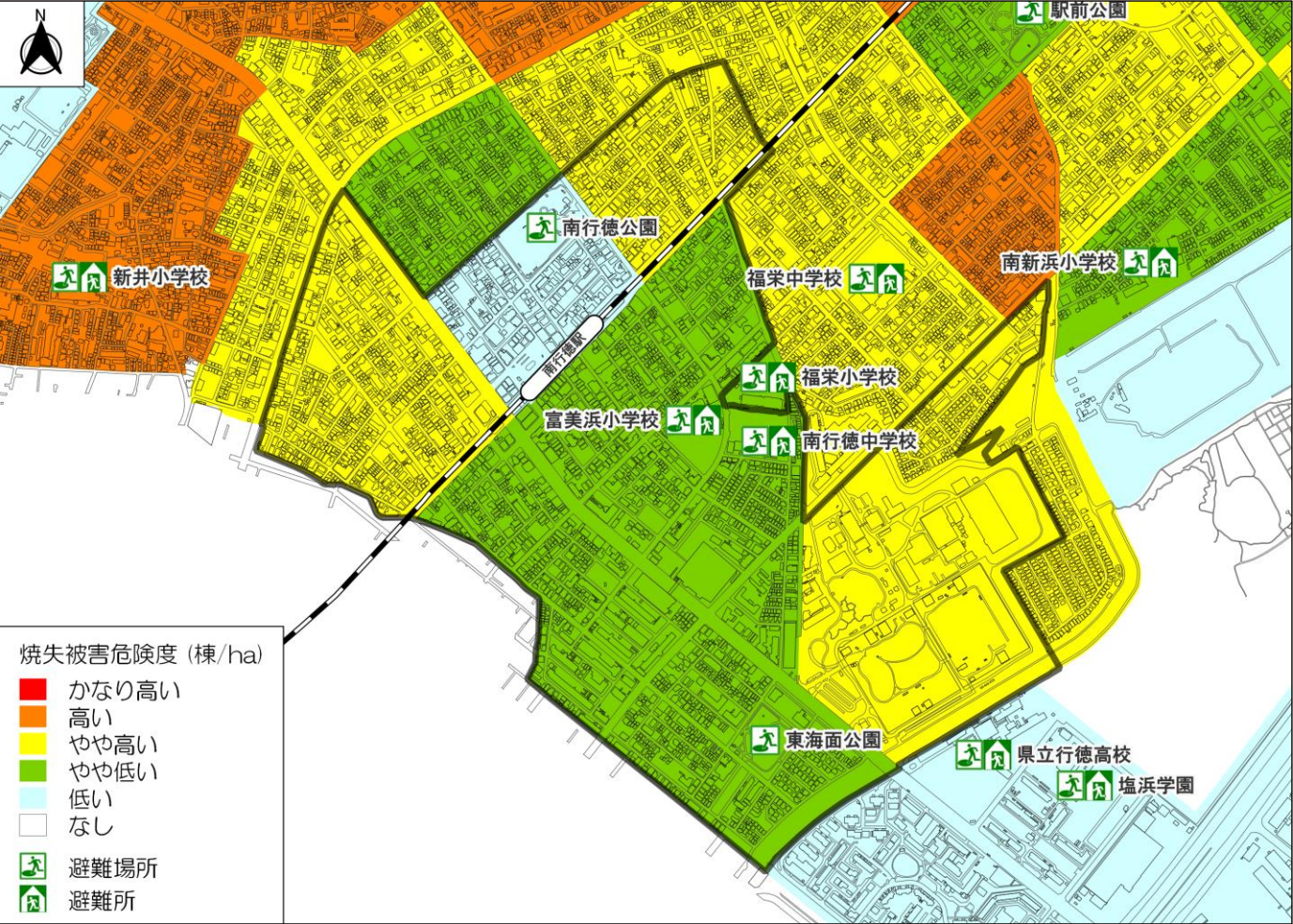
③液状化危険度



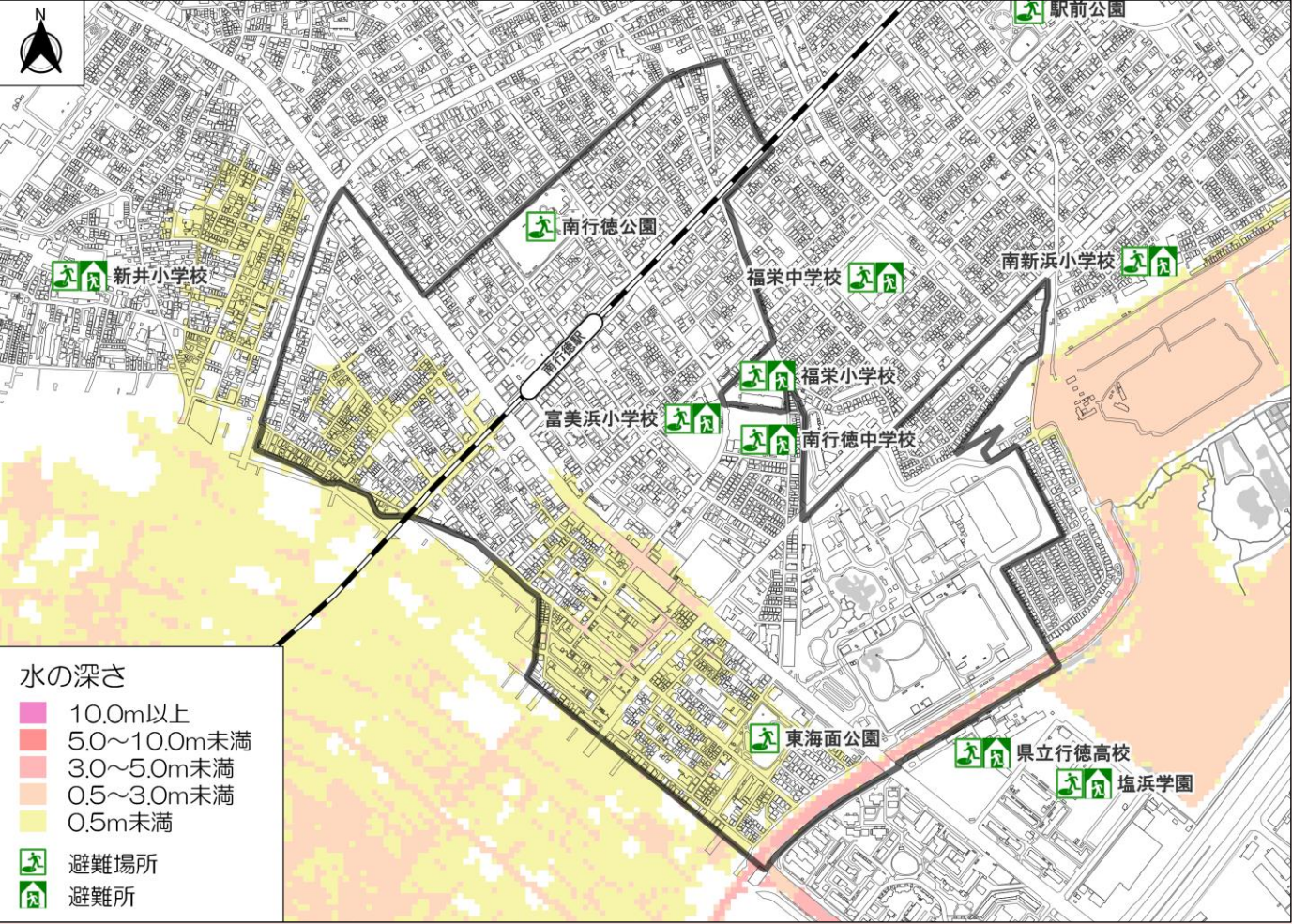
④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑥津波による影響



平成24年4月：千葉県

⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

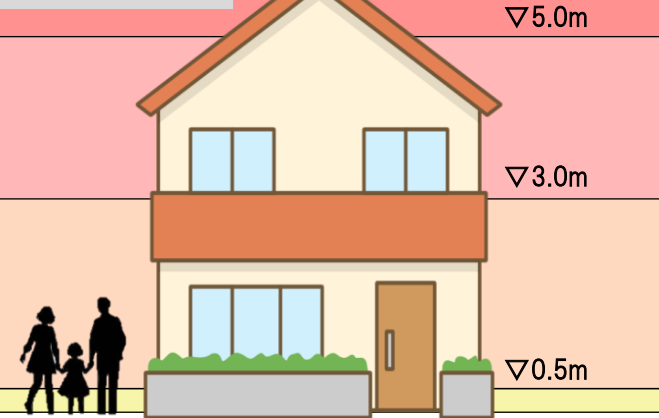
また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

水の深さ

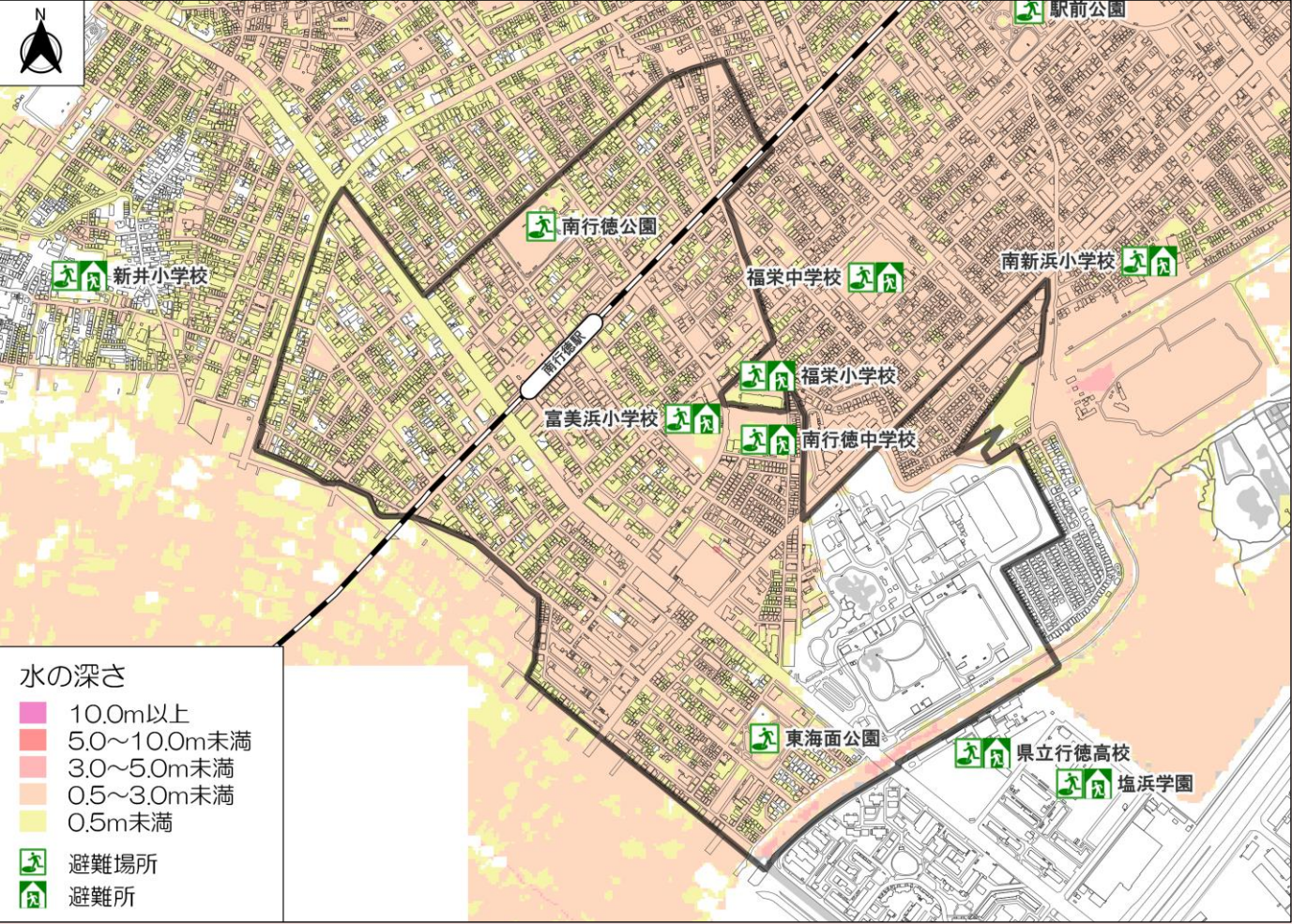
- 水の深さが5.0m以上
- 水の深さが3.0～5.0m未満
- 水の深さが0.5～3.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



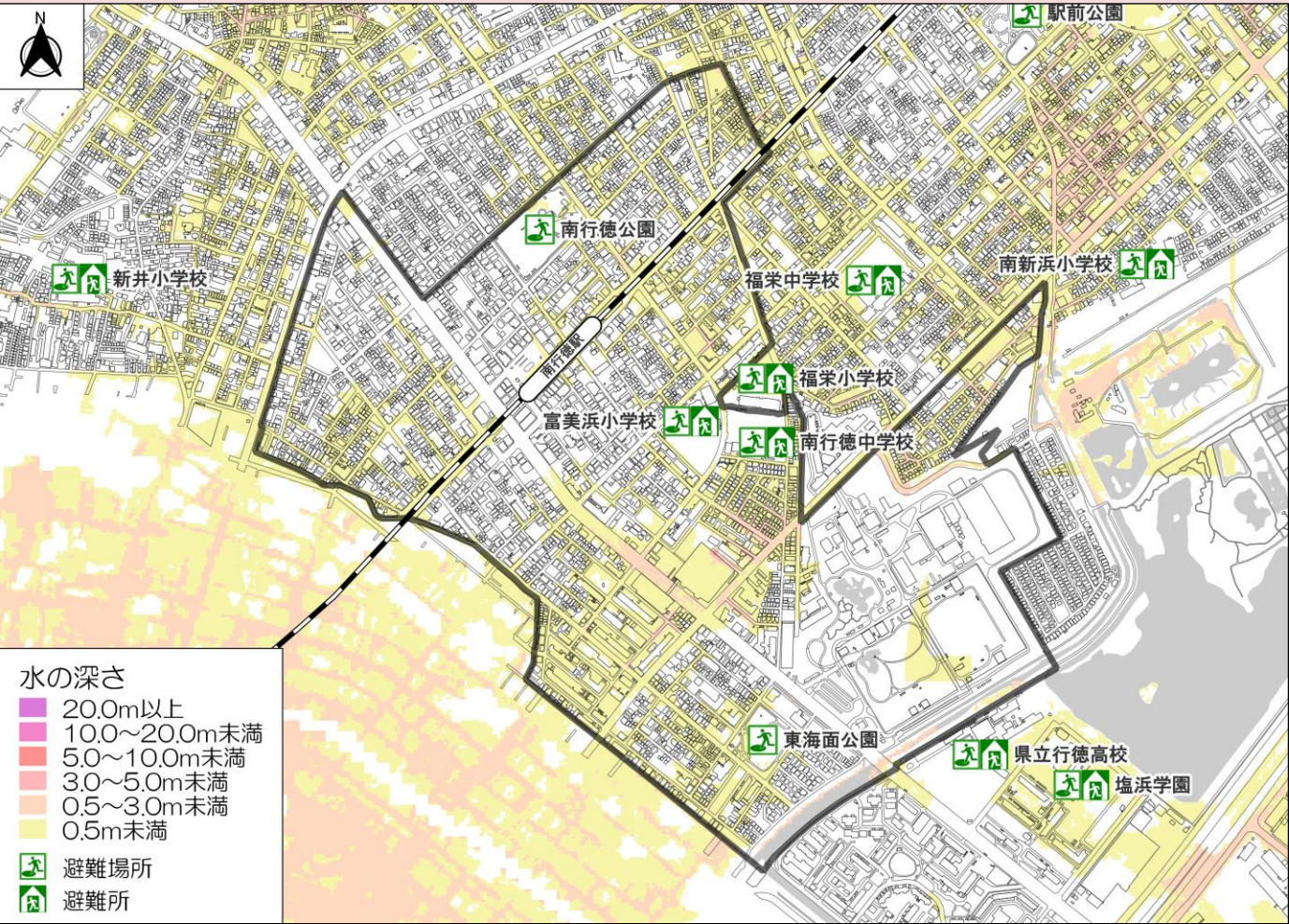
※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

⑧洪水（江戸川）



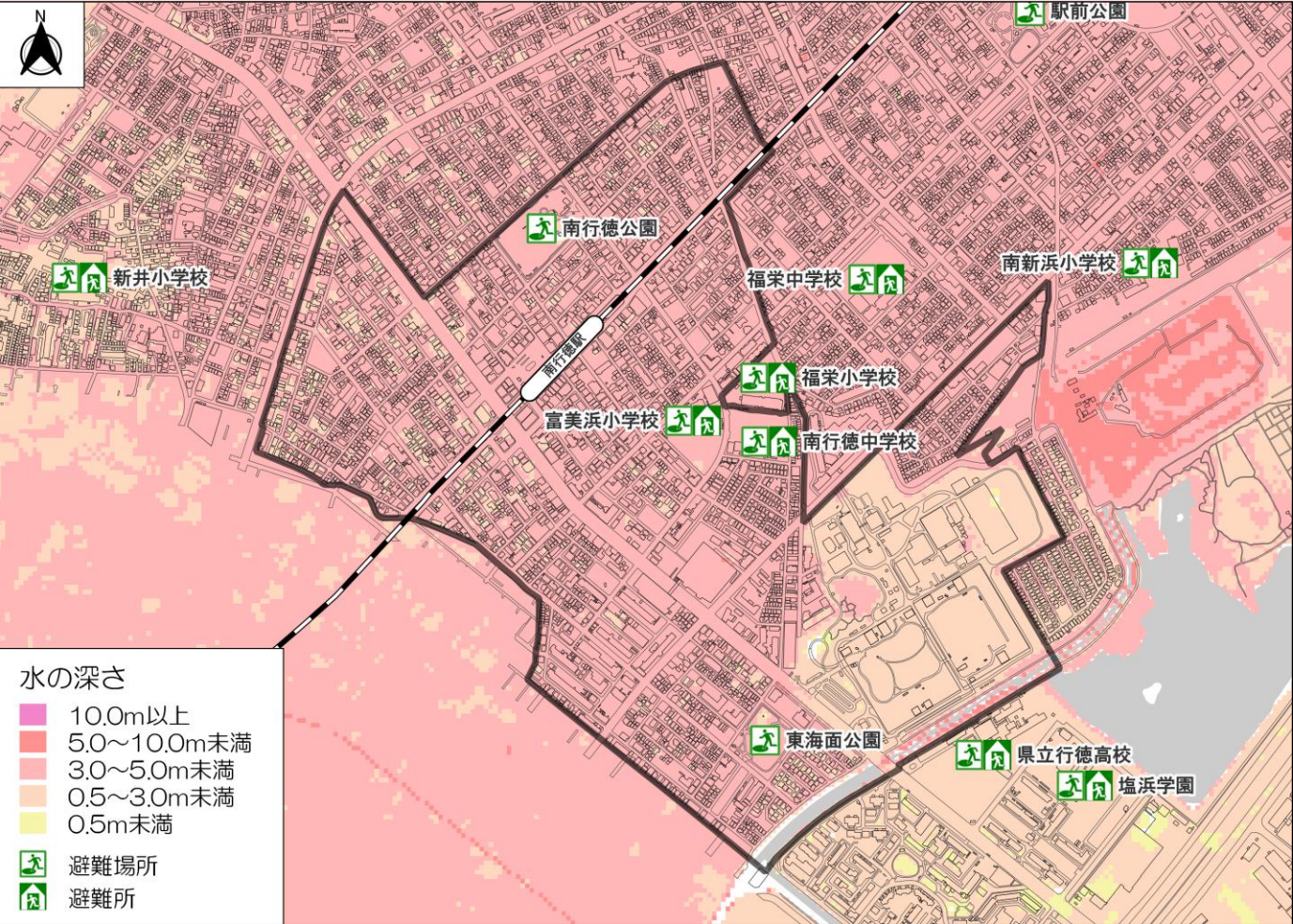
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県

◆メモ

